

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900326
法人名	医療法人 村山内科
事業所名	グループホーム 愛
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1 (電話)0883-72-5789

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 8日

【情報提供票より】(平成20年1月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 10人, 非常勤 1人, 常勤換算 2階5.8人,3階5人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		660 円	

(4)利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.9 歳	最低	77 歳	最高	101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・村山内科 ・徳善歯科クリニック
---------	------------------

徳島県 グループホーム愛 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市の中心部に立地し、家族、地域との馴染みの関係が継続しやすい。地域との交流も図りやすく、商店街の並びに位置しているため、利用者が散歩をしたり、買い物を楽しむことができる。学習療法を始めて一年が経過し、その効果を見ていくと共に、利用している学習者の日常生活にも大きな変化が見られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題を全職員で話し合い、研修計画の作成、事業者間の連携、ホーム便り(四季便り)全てにおいて取り組み改善されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は外部評価、自己評価を実施する意義を理解し、自己評価は全職員で話し合い、作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加メンバーは、利用者、家族、地域包括支援センター職員、市町村職員、町内会長、町内会女性部役員等が参加され、議題は、サービスの実際、外部評価結果、自己評価の取り組み、災害時の取り組みや協力要請、意見、要望等について話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や家族の面会時、また、家族会等での意見や不満、苦情等、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望は、その都度話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会や自主防災に加入している。商店街の四季の飾り付けに出かけたり、地域の懇談会や、会合等に事業所を活用してもらい職員、利用者との交流に活かされている。定期的に幼稚園児や婦人会の訪問もあり、地域に密着した交流がされている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念があり、全職員が理念について理解し、地域との関係づくりが浸透している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見やすい場所に理念が提示され、管理者や職員が、いつでも見られるようになっている。部会などでも唱和し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し商店街の四季の飾り付けにも出かけている。地域の懇談会や、会合等に事業所を活用してもらい、職員や利用者との交流を持っている。定期的に幼稚園児や、婦人会の訪問等があり、地元の人たちとの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また、前回の外部評価で見出された課題の改善計画を立て、全てにおいて改善されていた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されている。参加メンバーは、利用者、家族、地域包括支援センター職員、市町村職員、町内会長、町内会女性部役員等で、サービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告や話し合いが行われている。話し合われた内容、課題については、部会で伝達する仕組みが作られ、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、キャラバンメイト活動報告や、事業所の現状等を市町村担当者と話し合う機会を持ち、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
など					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や、定期的に電話で日常生活の報告をしたり、「四季だより」「時々の写真」を送付して、中に必ず一筆の手紙を添えている。金銭管理は適正に処理され家族の確認印、サインがあった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の面会時、また、家族会等での意見や不満、苦情等、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望は、その都度話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限に抑える努力をして、代わる場合には、引継ぎの期間を十分とるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員参加型で、学習療法の実践者研修を1年以上継続している。地域研修会での発表や、リーダー研修等では、外部講師による定期的な実践研修をしている。研修報告は毎月の部会(会議)で報告され、報告書は全員が閲覧して回覧印等もあった。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、研修参加を通して同業者との情報交換や、さまざまな取り組み、意見等を聞き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、家族等と一緒に見学に訪れたり、日中一緒に過ごしたりしている。利用になった場合には、担当職員を選任し、安心感をもってもらうようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者から調理方法や、知恵を出してもらい等、共に支えあう関係作りが築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員等が生活の中で、コミュニケーション等を通して利用者の希望、意向の把握に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族には日頃の関わりの中で思いや要望を聞き反映させるようにしている。チームケア会議では、事業所外の歯科衛生士による口腔ケアや、義歯の管理方法のアドバイスがあり介護計画に活かされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しと、状態が変化した場合の随時の見直しがされている。内容については本人、家族、必要な関係者で話し合わせ、現状に即した具体的な方法や手順を検討した新たな計画書が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や外出などの必要なサービスを柔軟に支援している。口腔機能向上委員会を設け、口腔内の異常の早期発見、早期対応の取り組み、義歯の咬合性について、歯科衛生士と連携を取りながら管理している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけの医療機関への受診支援がされ、常に連携を図っている。受診等は家族と協力し通院介助を行ったりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から本人、家族、医師等と話し合い、状況に応じた同意を得て、方針の統一を図っている。終末期から看取りまでの体制が整い、身体面、精神面からのケアの実践がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をされている。契約書、事業所運営規程に秘密保持、個人情報保護法が明示され、全職員への理解と徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、その日の利用者の希望に合わせて柔軟な対応をしている。散歩や行きつけの理容、美容院等に行ったり、商店街に買い物に出かけたり、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや食べたいものは、日ごろの会話から把握している。献立表はあるが、庭先の畑に植えてあった作物が大きくなっているとそれを収穫し、一品の追加を利用者と一緒に準備したりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴したい日(毎日での入浴)や希望する時間帯を聞き支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯物の取り込み、クッションカバーやポタン付け、くもん学習法、庭に出ての近隣の人たちと花の植え替え、野菜の収穫等、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとの支援が職員と一緒にされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への買い物、戸外での散歩、馴染みの店(理容院、美容院、刺繍に必要な毛糸店)等に出かけている。車椅子、シルバーカー利用者の方も一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署、事業所関連職員の協力で、年2回実施している。また、地域の自主防災への参加や、運営推進会議などで災害時の理解を得られている。備品に飲料水の準備があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
している					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎食後にチェック表に記録し、職員が一人ひとりの一日の摂取量を把握し情報を共有している。母体法人の栄養士による専門的な栄養バランスのアドバイスもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を飾ったり、行事がある時には、その時々飾り付けを利用者と一緒に行ったり、楽しみながら居心地よく過ごせる雰囲気作り空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅から持ち込んだタンスや、小物入れ等が置かれている。鉢植えの花も窓際に置き、植え替えをしたり、見て楽しんだりして居心地よく過ごせる工夫がされている。		